

「冬虫夏草標本」を寄贈いただきました

冬虫夏草（とうちゅうかそう）の収集・研究者であり附属薬用植物園の研究生であった矢萩信夫博士が収集された冬虫夏草菌類の一部を薬学研究科に寄贈いただき、2014年8月4日山口雅彦研究科長より矢萩博士に感謝状が渡されました。冬虫夏草標本は「矢萩コレクション」として、正面玄関に展示してあります。

「冬虫夏草」は、冬は虫の姿で過ごし、夏には草になるという不思議な現象として古くから注目を集め、滋養強壮、鎮静、鎮痰に効果がある漢方薬として珍重されてきました。本来は、中国やチベットの高山に棲息する鱗翅目のコウモリガの幼虫に寄生する菌の一種 *Cordyceps sinensis* のことを指しますが、昆虫に寄生する他の菌も含め、総称して冬虫夏草と呼んでいます。冬虫夏草は特定の昆虫に特定の菌類だけが寄生するという「寄主特異性」で知られています。そのため、昆虫と菌類との関係、とくに、昆虫の生体防御機構や菌類が防御機構をうち破る仕組みを研究する上で優れたモデルとして注目を集めています。また、古くから知られる漢方薬「冬虫夏草」の薬用成分を明らかにし、安全で安定した薬効をもつ新薬の研究開発も進められています。



(附属薬用植物園 早坂英記)